

先日、駐車場脇の雑草抜きをしました。ちょうど曲がり角にあるこの場所は、放っておくと曲がった先の様子が見えないほど背の高い草が生えてしまっています。毎年草刈りをしますが、あつという間に伸びてしまうので、今年は短いうちに草抜きをすることにしました。いざ始めてみるとその根っこは深く、強く、広く地面にしっかりとつながつていたのです。踏まれても、刈られても、それでも強く伸びてくるのは、この根っこがあるからなのだと感心しました。

ふたばランド保育園の理念の一つに「たくましく 大地に根をはれ ふたばっ子」があります。乳幼児期は人生の根つこの時期だからこそ、実体験を伴う経験が心の育ちの栄養になるのではないかと考えています。

本園では子どもの経験を第一に考え、コロナ前からほとんどの行事を変えずにおこなっています。時代の変化、気温の上昇から難しくなることはありますが、今後も「子どもにとって」を中心に考えていきます。

また、園生活では縦割り保育を中心とした異年齢児の関わりも積極的に取り入れています。大きい子は小さい子に優しく接したり、小さい子は大きい子に憧れを持ったり。そして同学年の友だちと楽しく遊ぶのはもちろんのこと、時にはケンカや思い通りにならないこともあります。保育園は子どもの社会と言えます。我々保育者は時に見守り、時に一緒に楽しみながら沢山の経験と心につぶりの愛情を与えていきます。

園庭の桜の木は今年も綺麗な花を咲かせてくれました。桜が散った今は、眩しいくらいに瑞々しい新緑の葉を見せてくれています。目に見える綺麗な花や葉は、目に見えないしっかりとした根っこがあるからこそ。桜さん、ふたばっ子も負けないよ。

園長 梶原 秀一

今月の予定

教育支援課幼児教育アドバイザーの先生方による
読み聞かせ<年中・長児>
5/1(木) 13:30~

牛久市教育支援課の幼児教育アドバイザーの先生方に絵本や紙芝居の読み聞かせをしていただきます。毎年子どもたちは喜んでお話の世界を楽しんでいますよ。

保育参観
5/12~15(月~木)

保育参観では、お子さんの園での様子をぜひ感じていただきたいと思います。詳細は、配布した手紙や配信予定の保育内容をご覧ください。

交通安全教室<年中・長児>
5/20(火) 13:30~

牛久市交通指導課の教化員の皆さんに年間を通して交通安全や防犯について、子どもたちに分かりやすく楽しく、ご指導いただきます。

おべんとうデー
5/21(水)

子どもたちが大好きなお弁当の日！この日はみんな朝からルンルン気分で過ごしていますよ。
お弁当に関して別紙作成いたしました。そちらを参考にご協力をお願いいたします。

リトミック
5/27(火)

今年度も中島よし子先生に天野式リトミックをご指導頂きます。楽しみながら、音に合わせて身体を動かす中で、次第にリズム感が養われていきます。2歳児ひよこグループから参加となります。



カレーライスの日
5/23(金)

今月こそみんなでカレー、サラダを作りましょう！かえるグループさんもフルーチェ作りをしますので、エプロン、三角巾のご用意をよろしくお願いします。



誕生会
5/29(木) 10:00~

5月生まれのお友だちの誕生会です！自分の誕生日、そして友だちの誕生日を喜び合える子どもたちに育って欲しいと願っています。

☆お知らせ・★お願い

★駐車場について

園の駐車場台数に限りがあるため、皆様にご不便をおかけしております。快適な園生活を送っていただくために、お迎えの際は駐車場を速やかに移動していただきますようお願い申し上げます。お迎え後、園内に長時間留まること、また、園の駐車場に車を停めたまま隣の公園へお出かけになること、車内で長時間携帯電話をご利用になることなど、ご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

★キッズビューについて

毎日キッズビューの入力にご協力いただきありがとうございます。しかしながら、未入力のご家庭が毎日一定数見受けられています。朝の忙しい時間帯ではございますが、お子さんの健康管理、降園に関する情報など、園生活を過ごす上で重要な情報となりますので、何卒ご入力をお願いいたします。

☆今後の日程について

未定だった日程についてお知らせいたします。

6月 4日尿検査提出日 17日内科検診 19日歯科検診
10月 10日筑波登山遠足(5歳児のみ)

★着替えの補充・記名をお願いします

日中は汗ばむほど気温が高い日が増えてきました。汗をかいたとき、汚れたときに着替えられるように、着替えケースの中に半袖等の薄手の衣服の補充をお願いします。また、これからの時期だからこそできる、絵の具遊びや泥遊びもどんどん取り入れていきますので、汚れても差し支えない服、動きやすい服のご用意を引き続きお願いいたします。また、その都度持ち物の記名を確認し、薄くなっている場合は書き直してくださいますようお願いいたします。

「虫も殺さぬ・・・」
三寒四温、寒さと温かさが交互にやって来て、次第に春になるというが、地球もとうとう温暖化で狂ってしまったか、三月に夏日が続くと、急に真冬に戻ったりして、体調を崩す子もいた。北竜台の始業式は、近くの愛国学園でお花見始業式。芝生の庭、桜の大樹の下でいっぱい遊んで、お弁当を食べた。時折、風が吹くと花びらが舞い、子ども達は手をかざし、雪が降っているみたいと走り回っていた。三寒四温、啓蟄、山笑う、桜吹雪、春の暖かさと、おだやかで美しい景色を思い起す美しい日本語だ。しかし、今年の春は、強烈であった。啓蟄が過ぎても、冬に逆戻りしたり、虫達も、地上に出て行ってしまうのか、さぞ困惑したことだろう。三月中旬、夏日が報じられた日、私の部屋の窓ガラスに、カメ虫の大きなヤツが張り付いていた。翌日に、冬に逆戻りして、ヤツはどうしたろう。春らしくなった四月中旬、外来種らしき大きなカミキリ虫がいた。捕まえると、ジリジリと歯を鳴らし、どう猛そうなヤツだった。早速、踏みつぶし、駆除した。すると、それを見ていた子が、「いーけないんだ！虫だって生きているんだ。殺してはかわいそうだよ」と非難してきた。「あのね、虫の中には、害虫といって、悪い虫がいるの、カミキリ虫は、大切な木を枯らしてしまうの、だから、見つけたら駆除(殺すとは言わず)しなければならぬの」と説明した。それでも「虫だって生きているんだヨ」と喰いさがって来た。殺生を禁ずる

仏門の小僧はやかいいである。昔の悪ガキ(今もいるが)は、善悪以前に、本能的に、虫や蛙や小動物を獲るのが好きである。そして、時には残酷と思うほどの命の扱いをする。そんな時は、命の大切さを教えるチャンスで、厳しくたしなめる。春、田圃の蛙を捕えて、牛乳パックに押し込み、自慢げに持ち帰った子がいた。パックを開けると大量の蛙が圧死し、ドロドロと出て来たことがあった。そんな時は、「こんなに押し込んで息が出来ないし、さぞ苦しかったよ。蛙さんだって、水辺でピョンピョン飛びはねて遊びたかったろうに、かわいそうなことしたね。死なせるために、捕ったんじゃないよね。次は、二匹ぐらいにして、死なせないようにしよう」と言うと、ウンと言っしょんぼり下を向き、何かを感じていた。こんな話は、子ども達と生活していると山ほどある。つばめの巣をカギの付いた棒でたたき落とし、ヒナを死なせた子ども達もいた。つばめは、遠い南の国からやって来て、日本で子育てを一生懸命にしている話をする、みんなシュンとして、涙目になった。大人の私達だって、命をもらって生きているのだ。子ども達は命の大切さと、狩猟本能、好奇心、探求心のギリギリの接点で、何かを感じ大人になっていく。「虫も殺さぬ・・・」という言葉があるが、大抵はその後に「・・・冷たい悪い奴」と続く。子ども達は、「虫を殺して、命の大切さを知り、」温かい人になる。

理事長

浅田 精利